

## シャント血管の 3D CT 画像の可能性 - 臨床現場への i-Pad 導入

長崎腎病院

○小嶋幸徳, 大山智之, 矢野利幸, 高木伴幸, 宮崎健一, 李 嘉明, 船越 哲, 原田孝司

### 【背景】

CT 性能の向上に伴い 3D 画像は短時間・高精度に作成可能となった。画像のフィルムレス化に伴い i-Pad に転送して用途の広がりを見せている。

### 【目的】

シャント血管の 3D 画像を、i-Pad にて閲覧する利点を検証する。

### 【方法】

シャント肢から造影剤を注入し、GE 社 Bright Speed Elite にて経時的にシャント血管を撮影し、3D CT 画像を作成する。このデータは富士フィルム社画像サーバー” Synapse” を介して i-Pad に転送する。

### 【結果・考案】

患者へのシャント画像説明については大変好評であった。症例カンファレンスの際 i-Pad を回覧し、シャント走行のオリエンテーションを立体的に確認し合うことは有用であった。患者の腕の真横に i-Pad を置いて穿刺ナビゲーター的に使う用途については、患者・スタッフともに安心感もあり有用と思われたが、患者ごとに調理用ラップで包む操作が難点であった。